

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/7)

学部・学科	総合社会学部・現代社会学科	職名	准教授	氏名	手 嶋 英 貴				
学歴	平成 5年 3月 駒澤大学仏教学部禅学科 卒業 平成10年 3月 東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻修士課程 修了 平成13年 5月 ベルリン自由大学歴史文化学部インド文献学科博士試験 合格 平成20年 5月 ベルリン自由大学歴史文化学部インド文献学科博士課程 修了								
学位	平成10年 3月 修士(文学)(東京大学) 平成13年 5月 Doktor der Philosophie(ベルリン自由大学)								
専門分野	学習スキル教育、キャリア形成支援、インド文化史、								
専門資格									
所属学会	平成13年 9月 インド思想史学会 平成14年12月 説話・伝承学会 平成15年12月 日本印度学仏教学会								
受賞									
担当授業科目	学 部(総合社会学部、臨床心理学部) 書く技法 A・B、書く技法 、プロジェクト科目								
論文指導	該当なし								
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	<table border="1"> <tr> <td>科目名 書く技法 B</td> <td>科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験</td> <td>実施学期 春・秋</td> <td>履修者数 70名(2クラス)</td> </tr> </table> <p>授業の概要： 形式的な作文技術だけでなく、書くべき内容、つまり自分の「経験」や「思考」を人に分かりやすく伝える意識・能力の向上を目指す。授業では、様々なミニ・レクチャー、テクストの読解、ワークなど、課題テーマへの視点を掘り下げるための要素も盛り込まれている。これにより、「読む・書く・考える」という三つの力を連携的、総合的に高めていくことが本科目の特色である。一学期の終わりには、レポートの作成や就職活動など、様々な場面で良質な文章を書く基礎的な力を身につけることができる。</p> <p>なお、手嶋担当クラスは教育福祉心理学科1回生からなっている。そこで、上記のメインプログラムに加えて「教育福祉心理基礎演習」での提出課題の作成指導を「書く技法」で行う仕組みを取り入れた。</p> <p>教育活動の振り返り：</p> <p>本科目は火曜1限と金曜2限の2クラスある。ともに履修者は35名であり、本欄では2クラスの「授業をよりよくするためのアンケート」期末データを個別に取り上げ、振り返りを行う。まず、アンケートの主要な設問項目の結果は以下の通りであった。</p> <p>この授業に熱心に取り組みましたか。 火1クラス：3.53 金2クラス：3.44 (全体平均3.46)</p> <p>この授業への出席率はどのくらいですか。 火1クラス：3.41 金2クラス：3.48 (全体平均3.46)</p> <p>この授業は勉学しやすい雰囲気でしたか。 火1クラス：3.47 金2クラス：3.37 (全体平均3.49)</p> <p>この授業の内容は理解できましたか。 火1クラス：3.65 金2クラス：3.44 (全体平均3.34)</p> <p>シラバスに示された目的・目標に向かって進歩しましたか。 火1クラス：2.94 金2クラス：2.44 (全体平均2.96)</p> <p>この授業の満足度はどのくらいですか。 火1クラス：3.41 金2クラス：3.11 (全体平均3.29)</p> <p>中間アンケート結果がその後に生かされたと思いますか。 火1クラス：3.25 金2クラス：2.86 (全体平均3.07)</p>	科目名 書く技法 B	科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験	実施学期 春・秋	履修者数 70名(2クラス)				
科目名 書く技法 B	科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験	実施学期 春・秋	履修者数 70名(2クラス)						

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/7)

教育活動の振り返り (つづき) :

このデータからは、同じ内容の授業を受けたにもかかわらず、火1クラスの評価数値に比べ、金2クラスの数値が低いことが分かる。本欄では、この理由について簡単に考察してみる。

火1クラスでは7つの項目のうち4項目で全体平均を越えており、7項目合わせた平均値では3.38と、全体平均 (3.29) を0.09ポイント上まわっている。学生に履修選択の余地がない必修科目で、かつ30人以上の中規模授業では、選択科目ないし小規模授業より授業評価が低くなりがちであるから、火1クラスの結果は、少なくとも学生側の評価については良好であったと言える。

一方の金2クラスでは7つの項目のうち全体平均を越えたものは2項目だけであり、7項目合わせた平均値では3.17と、全体平均 (3.29) を0.12ポイント下まわっている。中規模の必修科目としては許容範囲内であるように見えるが、火1クラスとの差が7項目平均で0.21と開いている点が注目される。

両クラスで0.3ポイント以上の差が生まれた項目は以下の3つである。

シラバスに示された目的・目標に向かって進歩しましたか。

火1クラス : 2.94 金2クラス : 2.44 (0.5 ポイント差)

中間アンケート結果がその後に生かされたと思いますか。

火1クラス : 3.25 金2クラス : 2.86 (0.39 ポイント差)

この授業の満足度はどのくらいですか。

火1クラス : 3.41 金2クラス : 3.11 (0.3 ポイント差)

このうち 「シラバスに示された目的・目標に向かって進歩しましたか。」についていえば、「シラバスを見ていないのでわからない」と答えた人の数が火1クラス3名であるのに対し、金2クラスは9人いた。現アンケートの数値処理では、 の設問に対する回答へのポイントが「そう思う4、少し思う3、あまり思わない2、そう思わない1、シラバスを見ていないのでわからない0」となっている。この配点による合計ポイントを回答者数で割ることで当該項目の数値を算出している。そのため、「シラバスを見ていないのでわからない」と答えた人が多ければ、それだけ数値が低くなる。これでは履修者の実際の成長度を表す数値にとなりえないから、「シラバスを見ていないのでわからない」と答えた人の数は分母から除くことが必要であろう。

「この授業の満足度はどのくらいですか。」の問い合わせからは、火1クラスよりも金2クラスの履修者において授業満足度が相対的に低いことが窺われる。冒頭に述べたとおり、両クラスの授業は教育内容・実施方法において何ら異なることがない。教える側の実感としては、金2クラスの方で授業が上手くできなかっただということもない。もし違いがあるとすれば、本科目への「苦手意識」を持つ履修者の数においてあるかもしれない。例えば、両クラスにおいて未提出課題があるために不可となった履修者（長期欠席者は除く）の数を見ると、火1クラスでは2名であったのに対し、金2クラスでは6名であった。このほか、学期末になってようやく未提出課題を提出できた履修者の数を見ると、火1クラス1名に対し、金2クラスは2名であった。いわば、金2クラスには火1クラスのおよそ3倍、課題作成への取り組みに遅れをとった履修者がいたといえる。こうした経緯から、本科目に対し苦手意識意を抱いていた履修者が金2クラスのほうで相対的に多く、そのことが授業満足度の回答にも反映したものと想像される。

なお、興味深いのは 「中間アンケート結果がその後に生かされたと思いますか。」という問い合わせの回答が低評価となっていることである。この設問には「(中間の満足度が低かった人のみ回答)」という但し書きが付されているが、金2クラスでは今学期、中間アンケートを取り忘れたため、全ての履修者はそれに回答していない。にもかかわらず期末アンケートにおいて金2クラスの履修者たちが

に回答しているということは、彼ら自身、中間アンケートに回答したかどうかをすでに忘れていることに他ならない。さらに、期末時点で中間アンケートに答えたかどうかを履修者が忘れているような状況では、たとえ中間時点で回答をしていたとしても、そこで何を書いたか履修者は恐らくあまり覚えていないことが推察される。したがって、 の設問における結果数値には、目下のところ十分な信頼を置きにくいということになる。

教育活動の成果 :

前項の考察からは、主に履修者側の達成度・成長度への自己評価において、両クラスで差のあることが確認された。一方、教員側の教育達成度に対する評価は、両クラス間で大きく変わらない。

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/7)

	<p>教育活動の成果 (つづき) :</p> <p>最終成績における平均評点を見ると、火1クラス : 90.0 ポイント、金2クラス : 89.4 ポイントと、その差は 0.6 ポイントであった。少なくともすべての課題を提出できた大半の履修者に関して言えば、概ね目標としたレベルにまで成長してくれたと評価している。</p> <p>今後の課題 :</p> <p>金2クラスで見られたように、課題への取り組みで出遅れた学生がいた場合、それへの対応をさらに手厚くしていくことが今後の課題となろう。4つある提出課題のうち、最初の2つが提出期間を終えた学期半ばの時点で進捗度をチェックし、遅れの兆候を早めに見出すことを次年度から行いたい。その上で、遅れ気味の履修者には授業内でのサポートだけでなく、個別の課外指導を行うといった対応をする予定である。</p>
F D 活 動 . 教 育 實 績	<ul style="list-style-type: none"> ・学内外の FD 関連講演会 / セミナー 等への参加実績 を記入してください。 <p>1. 京都文教大学 2014 年度第 1 回 FD 講演会「京都文教大学の初年次教育を考える ジェネリック・スキルを育てるための科目間連携」講師、平成 26 年 10 月、京都文教大学</p> <p>2. 第 20 回 FD フォーラム (財団法人大学コンソーシアム京都主催) 第 10 分科会「知識と思考のクラウド化にどう対応するか」コーディネータ兼報告担当、平成 27 年 3 月、同志社大学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等を記入してください。 ・就職進路課主催「就職のための書く技法」講師担当 (3 回生対象 エントリーシート作成法の講義、およびエントリーシート作成の実地指導など) <p>【第 1 期】第 1 回：12 月 10 日 10:40 ~ 12:10 (22 名登録 ・ J206 教室) 16:20 ~ 17:50 (8 名登録 ・ 14-102 教室)</p> <p>第 2 回：12 月 10 日 同上</p> <p>第 3 回：12 月 17 日 同上</p> <p>【第 2 期】第 1 回：1 月 7 日 9:00 ~ 10:30 (3 名登録 ・ F501 教室) 10:40 ~ 12:10 (18 名登録 ・ F501 教室) 14:40 ~ 16:20 (22 名登録) 1 月 8 日 13:00 ~ 14:30 (15 名登録 ・ J201 教室)</p> <p>第 2 回：1 月 14 日、15 日 同上</p> <p>第 3 回：1 月 21 日、22 日 同上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都文教大学 2015 年度入学予定者向けプレエントランステー「文章表現」講師 (平 27 年 2 月 12 日、 G104 教室)
H26 年度 研究課題	<p>1. 大学カリキュラムとキャリア形成支援との間に相互補完的効果を生み出す教育手法の開発</p> <p>2. 山王神道に影響を与えた南アジアの思想と文化</p>
平成 二十六 (2014) 年度 の 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・京都大学人文科学研究所「『 ブラフマニズムとヒンドゥイズム 』準備研究」共同研究班におけるインド王権儀礼の文献学的研究 ・科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C) による研究課題「王権祭式アシュヴァーメーダの総合的研究：儀礼・思想・文学を横断する文化現象の解明」の推進 後述：(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含) <p style="padding-left: 2em;">アシュヴァーメーダ関連の諸写本に基づく校訂テクスト作成</p> <p style="padding-left: 2em;">インド思想史におけるアシュヴァーメーダの影響に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山王神道文献の教理展開に関する研究
平成 二十六 (2014) 年度 の 主な 研究 成 果 等	<p>(著書)</p> <p>(論文)</p> <p>(学会報告、学会活動)</p> <p>1. 「 ブラーフマナの中でシラウタストラより遅れて成立した部分 アシュヴァーメーダ関連個所より 」、単独、平成 26 年 6 月、第 2 回ヴェーダ文献研究会、 TKP ガーデンシティ京都</p> <p>2. “ The Evolution of the Kuśa-Lava Episode: Its Origin, and Variations in the Epic and Post-Epic Texts ”、単独、平成 26 年 8 月、 7th Dubrovnik International Conference on the Sanskrit Epics and Purāṇas 、クロアチア共和国・ドゥブロブニク市 The Inter-University Centre</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/7)

平成 二十六 (2014) 年度の主な研究成果等	<p>(学会報告、学会活動 つづき)</p> <p>3. 「Br̥hadāraṇyaka-Upaniṣad 1.1成立史 祭式学から哲学的思考への変遷をたどる」、単独、平成26年8月、日本印度仏教学会第65回学術大会、武蔵野大学</p> <p>4. 「アシュヴァーメーダの犠牲獣リスト形成史」、単独、平成27年3月、第4回ヴェーダ文献研究会、大阪大学</p>
	<p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>1. 「知識と思考のクラウド化がもたらす問題」(コーディネータ兼報告者) 単独、平成27年3月、第20回FDフォーラム(財団法人大学コンソーシアム京都主催)第10分科会、同志社大学</p>
	<p>(調査活動)</p> <p>平成27年 3月 「王権祭式アシュヴァーメーダの総合的研究:儀礼・思想・文学を横断する文化現象の解明」(科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金課題番号23520074:後述)および「山王神道に影響を与えた古代インド文化の研究」(個人研究課題)に関わる調査(単独)於:インド・ケーララ州・トリシュール市周辺</p>
	<p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>平成23年度-平成26年度 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金(基盤研究C)王権祭式アシュヴァーメーダの総合的研究:儀礼・思想・文学を横断する文化現象の解明(課題番号:23520074)研究代表者</p>
	<p>(学内活動)</p> <p>FD委員会委員、産学協働教育推進委員会委員</p>
	<p>(NPO法人等の団体への参画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財団法人大学コンソーシアム京都主催第20回FDフォーラム企画検討委員「平26.4-平27.3」 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本印度学仏教学会評議員「平22.9より」 ・天台宗典編纂所編纂研究員「平23.4より」 ・天台学大辞典編纂研究員(神道部担当)「平25.4より」 ・京都大学人文科学研究所・共同研究『プラフマニズムとヒンドゥイズム』準備研究班員「平26.4より」
平成 二十六 社会における活動年度の (2014)	<p>(著書)</p>
	<p>(論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. "Historical Position of the Preliminary Ritual in the Aśvamedha Described in the Vādhūla-Śrauta-Sūtra"、単著、平成22年9月、インド論理学研究会 インド論理学研究第1号 (pp.461-466) 2. "Mythological Background of the "Fort of the Gods" Built at the Aśvamedha Prescribed in the Old Śrauta-Sūtras of the Taittirīya School"、単著、平成23年11月、Journal of Indological Studies、Vol.22&23 (pp.87-96) 3. 「アシュヴァーメーダの馬をめぐる祭式学的思考の展開: 祭式における「理念と現実の隔たり」をどう埋めるか」、単著、平成24年11月、インド論理学研究会 インド論理学研究 第5号(pp.301-320) 4. "Dakṣinā at the Aśvamedha as Described in the Mahābhārata: Its Ritualistic Features Revealed in Comparison with the Vedic Texts"、単著、平成26年3月、日本印度学仏教学会 印度學佛教學研究 第62卷第3号 (pp.1-9)
平成 二十一 二十五 (2009~2013) 年度の主な研究成果等	<p>(学会報告、学会活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「初期キャリア教育と融合した初年次リテラシー養育」、単独、平成21年6月、大学教育学会第31回大会、首都大学東京 2. "Characteristics of the Aśvamedha Described in the Vādhūla-Śrauta-Sūtras of the Taittirīya School"、単独、平成21年9月、第14回国際サンスクリット学会、京都大学 3. 「馬の放浪をめぐる表象と実際: アシュヴァーメーダの馬は「一年間」放浪するか」、単独、平成24年6月、日本印度学仏教学会第63回学術大会、鶴見大学

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (5/7)

平成二十一～二十五（2009～2013）年度の主な研究成果等

	<p>(学会報告、学会活動 つづき)</p> <p>4. 「叙事詩の中のアシュヴァメーダ ヴェーダとの比較から見えてくる祭式学的特徴」、単独、平成25年9月、日本印度仏教学会第64回学術大会、島根県民会館</p> <p>5. "Aspects regarding the Horse Guards in the Aśvamedha: Revealed through Comparison with the Rājasūya"、単独、平成26年1月、6th International Vedic Workshop、インド共和国・コリコーデ市 The Gateway Hotel</p>
	<p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>学術講演：</p> <ol style="list-style-type: none"> 「大学初年次における表現技法科目の多角的展開」、単独、平成21年12月、京都高大連携研究協議会第7回高大連携教育フォーラム、キャンパスプラザ京都 「ケーララ州のヒンドゥー教司祭・タントリの現在」、単独、平成23年1月、文部科学省科学研究費課題成果報告イベント「現代インドにおける宗教伝統の危機と再生」、京都文教大学・指月ホール 「『自己』概念の東方伝播：印欧語文化圏からの旅人として仏教を見る」、単独、平成23年10月、京都文教大学人間学研究所公開シンポジウム「非・西歐的 わたくし をめぐって」、京都文教大学 “Promotion system of Sacrificer’s Status in the Vedic Kingship Rituals: Comparison of the Rājasūya and the Aśvamedha”、単独、平成24年12月、The International Symposium “Consecration, Initiation, and Coronation Rituals in Ancient and Medieval India”、京都大学 「サンスクリット文学におけるアシュヴァメーダ『ラーマーヤナ』とその翻案作品の比較」、単独、平成25年6月、科学研究費補助金（基盤研究A）「多言語重層構造をなすインド文学史の先端的分析法と新記述」（課題番号：21242009、研究代表者：東京外国語大学・言語文化学部・教授 水野善文）第9回研究会、東京外国語大学本郷サテライト（東京） <p>教科書等：</p> <ol style="list-style-type: none"> 「青春期を過ごすための読書」、共著、平成21年4月、共著者：市地敬典・野口勝三・森下育彦、京都精華大学共通教育センター、平成18年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」補助による刊行物「ことばをめぐる4つのエッセイ：日本語リテラシー課外授業」(pp.31-52) <p>エッセイ：</p> <ol style="list-style-type: none"> 「ドイツのカフェ」、単著、平成22年、DAAD友の会誌『Echo』(pp.17-19)
	<p>(調査活動)</p> <p>平成22年 2月 「科学研究費補助金（基盤研究C）南インドにおけるブラー・マン文化の現在：ケーララ州・ブラー・マン宗家の事例研究を中心に」(課題番号20520061)に關わる調査（単独）於：インド・ケーララ州・トリシュール市ほか</p> <p>平成23年 2月 「王権祭式アシュヴァメーダの総合的研究：儀礼・思想・文学を横断する文化現象の解明」(科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金課題番号23520074)に關わる調査（単独）於：インド・ケーララ州・イリンニヤーラクダ市ほか</p> <p>平成23年 4月 「王権祭式アシュヴァメーダの総合的研究：儀礼・思想・文学を横断する文化現象の解明」(科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金課題番号23520074)に關わる調査（単独）於：インド・ケーララ州・パンニヤール村ほか</p> <p>平成24年 2月 「王権祭式アシュヴァメーダの総合的研究：儀礼・思想・文学を横断する文化現象の解明」(科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金課題番号23520074)に關わる調査（単独）於：インド・ケーララ州・イリンニヤーラクダ市ほか</p> <p>平成25年 3月 「王権祭式アシュヴァメーダの総合的研究：儀礼・思想・文学を横断する文化現象の解明」(科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金課題番号23520074)に關わる調査（単独）於：インド・ケーララ州・イリンニヤーラクダ市ほか</p> <p>平成26年 1月 「山王神道に影響を与えた古代インド文化の研究」(個人研究課題)に關わる調査（単独）於：インド・ケーララ州・コリコーデ市</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (6/7)

平成二十一～二十五（2009～2013）年度の主な研究成果等

(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)	
平成20年度-平成22年度	科学研究費補助金（基盤研究C）南インドにおけるブラー・マン文化の現在：ケーララ州・ブラー・マン宗家の事例研究を中心に（課題番号:20520061）研究代表者
平成20年度-平成24年度	科学研究費補助金（基盤研究B）南インド現存二学派の収集諸写本に基づくヴェーダ新資料の校訂と研究（課題番号:20320010, 研究代表者：京都大学・人文科学研究所・教授 藤井正人）連携研究者
平成21年度-平成23年度	平成21年度-平成23年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）現代日本のポピュラーカルチャーの相関分析による成立基盤の実証的研究（課題番号:21652020, 研究代表者：京都精華大学・人文学部・教授 高橋伸一）連携研究者
平成23年度-（4年間）	科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金（基盤研究C）王権祭式アシュヴァ・メーダの総合的研究：儀礼・思想・文学を横断する文化現象の解明（課題番号:23520074）研究代表者

(学内活動)

平成22年 4月	広報委員会委員「平23.3まで」 人間学研究所所員「平24.3まで」
平成23年 4月	人権委員会委員「平25.3まで」 公開講座委員会委員「平25.3まで」 就業力育成支援委員「平24.9まで」
平成24年 4月	産学協働教育推進委員会委員「現在に至る」
平成25年 4月	FD委員会委員「現在に至る」

(NPO法人等の団体への参画)

平成24年 4月	NPO法人恒河沙母親の会 あんようほのぼのワークショップ講師「平26.3まで」
----------	-----------------------------------------

(小中高との連携授業の講師)

平成22年10月	京都府立桂高等学校における出張授業、「それは本当に応援なのか：スポーツ応援を通して見る現代社会」
平成23年 5月	京都文教高等学校における出張授業（アドバンスト・レクチャー・プログラム）「カフェ学入門： カフェがもつ社会的機能を探る」
平成23年10月	京都府立桂高等学校における出張授業、「それは本当に応援なのか：スポーツ応援を通して見る現代社会」
平成23年11月	1. 京都文教高等学校内部進学生への入学前教育、「エッセイの特徴」、於:同校 2. 京都文教高等学校内部進学生への入学前教育、「エッセイ作成法」、於:同校 3. 京都文教高等学校内部進学生への入学前教育、「課題作成指導」、於:同校
平成23年12月	1. 新潟県立巻高等学校生徒への模擬授業、「言葉の乱れとは何だろう：情報の整理と統合」、於:京都文教大学 2. 上宮高等学校入学予定者への入学前教育、「コラムの特徴・作成法」、於:京都文教大学 3. 京都文教高等学校内部進学生への入学前教育、「課題作成指導」、於:同校
平成24年 2月	1. 京都文教高等学校内部進学生への入学前教育、「コラムの特徴」、於:京都文教大学 2. 京都文教高等学校内部進学生への入学前教育、「コラムの書き方」、於:京都文教大学
平成24年 3月	1. 京都文教高等学校内部進学生への入学前教育、「課題作成指導」、於:京都文教大学 2. 京都文教高等学校内部進学生への入学前教育、「大学図書館活用法」、於:京都文教大学
平成25年 3月	上宮高等学校2年生対象プレスクーリング講義、「レポートについて」および「課題を書いてみよう」、於:京都文教大学
平成26年 3月	上宮高等学校2年生対象プレスクーリング講義、「レポートについて」および「課題を書いてみよう」、於:京都文教大学

平成二十一～二十五（2009～2013）年度の社会における活動

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (7/7)

平成二十一～二十五（2009～2013）年度の 社会における活動	(その他)
	平成18年 4月 京都大学人文科学研究所・共同研究「王権と儀礼」班員「平23.3まで」
	平成21年 6月 大谷大学大学院文学研究科博士学位請求論文審査委員（副査）「平21.9まで」
	平成22年 9月 日本印度学仏教学会評議員「現在に至る」
	平成23年 4月 京都大学人文科学研究所・共同研究「灌頂と即位の文化史」班員「現在に至る」
	平成24年10月 京都文教教養講座 現代社会学科テーマ：「身近な現象から「心と社会の関係」を学ぶ」第1回講師、「スポーツ応援に見る集団心理～私たちはなぜ応援したくなるのか？～」(F305教室、一般聴講者約80人対象) 於:京都文教大学
	平成25年 4月 天台学大辞典編纂研究員（神道部担当）「現在に至る」
	平成25年 5月 京都文教教養講座 総合社会学部テーマ：「国際文化としてのお茶・コーヒー」第1回講師、「ヨーロッパのコーヒー文化」(F302教室、一般聴講者約50人対象) 於:京都文教大学